

⑫ 公開特許公報(A) 平3-223002

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)10月2日

B 65 F 1/10
B 09 B 3/00

3 0 1 B

8818-3E
6525-4D

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑭ 発明の名称 圧縮容器装置

⑯ 特 願 平1-314887

⑰ 出 願 平1(1989)12月4日

⑱ 発 明 者 山 口 光 治 愛知県西春日井郡豊山町豊場富士101番地
 ⑲ 出 願 人 サカキバラモデル株式 愛知県宝飯郡一宮町大字大木字小牧179の6番地
 会社

明 細 書

1. 発明の名称

圧縮容器装置

2. 特許請求の範囲

(1) 圧縮復元が可能な適径、適高の張設コイルパネの下径部を基板に固定し、その上径部に押蓋体が当接し開閉可能に成すように該上径部の一部に枢軸された該押蓋体であって、該コイルパネ径内にはゴミ袋を着脱可能に内設した状態に於いて該ゴミ袋内の形芥物を該押蓋体の押圧に依り該コイルパネと共に圧縮又は復元させる、圧縮容器装置。

(2) 押蓋体の裏面部には中心部にネジ孔を突設し周縁リブまで放射状のリブを形設し、そのリブ間を流気路とし、別設のばねコイルパネの上径部径に等しい適数個の流気孔を穿設した凸器体の中心部に突設したネジをもって該ネジ孔と嵌止一体にし、該押蓋体の一部には該上径部の一部に設けられるL形ブラケットと間隙部を設けて枢軸することと、該上径部は該周縁リブ以内

の該リブと折返されたゴミ袋を介して当接し該周縁リブ間に流気口の間隙部を設ける請求項1項記載の圧縮容器装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ゴミ等の形芥物を圧縮収納する容器装置に関する。

〔従来技術〕

従来此種ゴミ容器は、嵩加され易い形芥物を順次投入するのでたちまち容器に充塞し取捨回数が多くなっている。このように至って原始的なゴミ容器が現在も使用されている現状である。

〔課題の解決手段〕

本発明は、適径の基板上に適径で適高の張設コイルパネの下径部を固定して上径部の一部にはヒンジ部を設けて押蓋体の周縁部の一部と可動連結して上径部との着脱可能に成した構成に於いて、コイルパネ径内には径内に相当するゴミ袋を内装しその開口部を上径部外に折曲げて固定し、ゴミ袋内に形芥物が嵩加されれば押蓋体を押圧しコイ

ルパネを圧縮し同時にゴミ袋内で形芥物間の空隙部を圧縮接合させてゴミ袋内の形芥物の容量を縮小し収納量を増大する。又押蓋体の径は上径部より外側に延縁して押蓋体の裏面部に形設された流気路により圧縮時の空圧を外部に放出する。

〔作用〕

本発明は、基板上に固定された適径で適高の張設コイルパネに着脱可能に内装するゴミ袋内の形芥物を押蓋体の押圧で圧縮縮小にしてゴミ袋内の形芥物の収納空間部をコイルパネの復元に依りつくり、それらの反復作用に依りゴミ袋の形芥物収納量を高めることと、押蓋体の径は上径部よりやや大径にして押蓋体の裏面部に形設される流気路に依って圧縮時に於けるゴミ袋内の空圧を外部に放出又は復元時には吸入させるものである。

〔効果〕

叙上の如く本発明は、ゴミ袋内に於いて各形芥物間にできる空隙部を圧縮して除き、ゴミ袋の形芥物収納容量を増加させる特徴効果と、これらの作動を押蓋体の手動押圧で成すことで低コストに

成り、更にこれらの梱包荷姿はコイルパネを圧縮し縮小することで縦方向は短縮し好都合な荷姿になり従って運送費の低減を計ることができる。

〔実施例1〕

第1図乃至5図の如く、適径及適高の張設コイルパネ1の下径部2は下径部2よりやや大径に成した基板3に固定され、その上径部4は押蓋体5の裏部と当接するようにし、上径部4の1部にL形ブラケット6を取付け押蓋体5の下折形アーム7をL形ブラケット6間に適間の間隙部aを設けてそれら適当端部に枢軸8して連結し、上径部4から脱した押蓋体5の適当な仰角保持はL形ブラケット6の適当位置にあるストッパー9に依ってアーム7と当接保持する。押蓋体5の裏部は、中心部にネジ孔10を突設し、押蓋体5の周縁リブ11まで放射状のリブ11aを形設し、各リブ11a間の間隙部を流気路12とし、ネジ孔10には別設の適数个の流気孔13を穿設した容器状の凸器体14の中心部に突設したネジ15を締着して一体と成し、押蓋体5間に空間部bをつくる。これをコイルパネ1

の上径部4に当接する押蓋体5のリブ11aは周縁リブ11間に間隙部a1をつくり流気路12の吸排口となり、圧縮復元時の於ける凸器体14の流気孔13に依り凸器体14の空間部bを通過するゴミ袋16の流気cを円滑に流通させる。

〔実施例2〕

第6図乃至9図の如く、基板3上にコイルパネ1を下径部2を固定し、その上径部4にゴミ袋16の開口部dの周辺部を外側に折曲げて掛留しコイルパネ1の内径に倣置するもので、これらの状態で使用状況を説明すれば、復元状のコイルパネ1の上径部4はゴミ袋16を介して押蓋体5の裏部と当接し、凸器体14は形芥物eの嵩加に至れば押蓋体5を押圧しコイルパネ1を圧縮fと同時にゴミ袋16内の形芥物eを圧縮縮小し、同時にゴミ袋16内の流気cを凸器体14の流気孔13と押蓋体5の裏部に形設される流気路12の周縁リブ11側の上径部4との当接部外を流気cの吸排口とし、凸器体14内の空間部bに消臭剤、香料等を入れ流気cの触気依る形芥物eの悪臭を防止する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の側面図、第2図は、押蓋体と枢軸し開閉状態を示したL形ブラケットの側面図、第3図は、押蓋体の裏面図、第4図は、凸器体の切断側面図、第5図は、作動概念図、第6図は、全体の斜視図、第7図は、作動時の復元状態図、第8図は、作動時の圧縮状態図、第9図は、圧縮後取出された形芥物入ゴミ袋の側面図である。

1：コイルパネ 2：下径部 3：基板 4：上径部 5：押蓋体 6：L形ブラケット 7：アーム 8：枢軸 9：ストッパー 10：ネジ孔 11：周縁リブ 12：流気路 13：流気孔 14：凸器体 16：ゴミ袋 a：間隙部 b：空間部 c：流気

特許出願人

株式会社サカキバラテック



